

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	178人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	屋外複合遊具
使用学年及び人数	小学部児童 84人
使用頻度	毎日
使用状況	<p>月、水、金の朝に小学部2年生児童が自由遊びで使用。          隔週火曜日の午後に小学部4,5,6年生児童が運動クラブで使用。          火、水、木、金の昼休みは小学部内で調整をしながら密にならないように、10人以上の集団は単学年で、少人数の集団は複学年で使用。          上記以外でも、生活単元学習、特別活動など学習活動に応じて、授業で使用。(例えば、公園利用の事前学習や年度始めの仲間づくりの学習など)</p>
物品の使用による変化や効果	<p>完成した遊具を初めて目にした児童は、教室の窓から指をさして「遊びたい」とアピールする姿や、「遊んでいいよ」の合図が待ちきれずに飛び出そうとする姿が見られるほどでした。遊具があることで自分から登ってみよう、滑ってみようとする積極的な動きが多く、楽しみながら体力向上、筋力やバランス力のアップにつながっています。梯子登りやロッククライミングのように、他では経験をしたことのない手足の動きも体験できています。更に友達と一緒に活動する中で、お互いを意識したり、真似をしたり、やり取りをしたり、発達年齢に応じた関わりの姿も引き出すことができています。何より、児童が学校に登校する楽しみの一つになっている遊具です。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>引き続き、怪我や事故がないよう安全に配慮しながら、子どもたちが思う存分体を動かすことができる貴重な遊び場として、活用していきたいと思っております。</p>
その他希望や所感など	<p>令和3年開校時は何もなかった芝生のプレイグラウンドに魅力的な遊具が設置されたことで、児童が夢中になって遊ぶ姿が見られ本当に嬉しく思っています。保護者や来校された方にも「スズキ教育文化財財団様より寄贈していただいた」ことを伝え、喜びを共有しています。ありがとうございました。大切に使用させていただきます。</p>

## 2. 活用の様子

